

精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名： 雁の巣病院 精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名： 熊谷 雅之

住 所： 〒811-0206 福岡市東区雁の巣1丁目26番1号

電話番号： 092-606-2861

F A X： 092-607-2211

E-mail： info@gannosu.org

■ 専攻医の募集人数：(3) 人

■ 応募方法：

書類は Word または PDF の形式にて、E-mail にて提出してください。

電子媒体でデータのご提出が難しい場合は、郵送にて提出してください。

・ E-mail の場合： info@gannosu.org 宛に添付ファイル形式で送信してください。

・ 郵送の場合：以下宛に郵送してください。

〒811-0206

福岡市東区雁の巣1丁目26番1号

■ 採用判定方法：

一次選考は書類選考で行います。そのうえで二次選考は面接を行います。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各方面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

当院は福岡市中心部から車で 20 分ほどの位置に立地する精神科病院である。国立公園である海ノ中道海浜公園や「漢委奴国王」の金印発見で有名な志賀島への入り口に立地し、病院の一部からは玄界灘や博多湾を見渡すことのできる静かな環境である。都市高速道路などの利用により福岡市全域から短時間で到達可能な立地を生かして、福岡市のみならず近隣市町村からの受診も多数受け入れている。

当院は福岡市内唯一の精神科救急病棟を 3 病棟（144 床）有し、あらゆる精神疾患を常時受け入れる方針としている。またアルコール依存症をはじめとしたアディクションについても長年取り組んでおり、近年ではギャンブル依存や危険ドラッグなどにも力を入れている。

当院の研修においては、精神科医師の素養を豊富な症例の中で実践的に身につけることが特徴である。治療手技としては、基本的な薬物療法や精神療法はもちろん、mECTについては年間 1000 例（延べ）程度を実施しており、クロザピンの使用も県内有数である。また当院においては精神鑑定の経験豊富な医師が複数おり、多数例の鑑定を実施していることから司法精神領域での研修も可能である。また児童思春期症例（主に 10 代後半）や器質症例も豊富にあり、精神保健指定医の症例においては短期間で集めることが可能である。

当院の関連病院であるもりもと病院（佐賀県唐津市）は県をまたぐものの近接しており、地域医療の経験を積み、また地域医療への貢献も実践できるよう配慮してプログラムを作成している。また、当院は近隣の総合病院から初期研修医を毎年 10 名弱受け入れており、初期研修医への指導を通して総合病院と「顔の見える」関係作りを行っている。当院での研修では、身体疾患への初期対応やコンサルテーション、身体科救急との連携についても十分に体験できるものと考えている。

また、司法精神領域の研修をより充実させるためには医療観察法病棟での経験が望ましいこと、また児童精神医学（特に小児）の専門的な素養を身につけたいというニーズに応えるため、独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センターと連携を図って研修プ

プログラムを構築している。

精神科医としての素養を身につけるにはさまざまなアプローチがある。一例ごとの症例を丁寧に見ながらきめ細かい指導を受けていくという従来の方法はもちろん重要であり、一人ひとりの患者さんに真摯に向き合うことは医師として当然のことである。しかし一方で、精神科医療は疾患のみならず社会背景もさまざまな「十人十色」の患者さんと向き合う臨床の場であり、「どれだけ多くの患者さんを診てきたか」ということはまさに「百聞は一見にしかず」であり、精神科医の能力を大きく左右するものである。当院の研修では、精神科救急病棟を運営するなかで 24 時間 365 日そしてあらゆる症例を断ることなく受けることをモットーとしていることから、多数のさまざまな患者さんの診療に携わることになる。また、精神科救急病棟の 3 ヶ月間という標準入院期間の制約はあっても「必要な治療を行う」ことが最も重視される当院の運営方針の中では、患者さんへの治療を粘り強く行い、患者さんに寄り添っていくという臨床の厳しさでもあり醍醐味を十分に経験できるものと考えている。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 24 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	622	216
F1	1246	403
F2	1406	665
F3	1357	307
F4 F50	1240	77
F4 F7 F8 F9 F50	1500	120
F6	174	23
その他	678	190

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

①施設名：雁の巣病院

- ・施設形態：民間病院
- ・院長名：熊谷 雅之
- ・指導責任者氏名：熊谷 雅之
- ・指導医人数：(5) 人
- ・精神科病床数：(264) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	215	70
F1	602	59
F2	507	158
F3	514	94
F4 F50	261	18
F4 F7 F8 F9 F50	67	17
F6	61	3
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

福岡市内唯一の精神科救急病棟を3病棟（144床）有し、24時間365日あらゆる救急への対応を行なっている。措置入院や応急入院の症例も豊富である。治療にあたっては、mECTやクロザピンも積極的に活用している。またアルコールや薬物、ギャンブル依存等の治療に長年取り組んでおり、各種プログラムが充実しているほか、福岡県の飲酒運転に関わるプログラム等において行政との協力も密に行っている。医療観察法鑑定入院や指定通院医療等も実施しており、司法領域への取り組みも活発である。

B 研修連携施設

① 施設名：森本病院

- ・施設形態：民間病院
- ・院長名：波江野 誠
- ・指導責任者氏名：波江野 誠
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(76) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	174	23
F1	63	25
F2	202	30
F3	317	37
F4 F50	375	18
F4 F7 F8 F9 F50	26	2
F6	4	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

JR 唐津駅から徒歩 10 分程度の唐津市の中心部に位置している。

外来診療は予約制をとっておらず、患者さんが「いつでも、気軽に立ち寄っていただける」病院である。

入院病床は 76 床であり、気配りの届きやすい規模である。また、隔離室は 1 室しかなく、ソフトな雰囲気の中で治療を行っている。

医師が定期的に施設を訪問しており、地域に根差した医療を行っている。

②施設名：肥前精神医療センター

- ・施設形態：独立行政法人国立病院機構
- ・院長名：杠 岳文
- ・指導責任者氏名：吉森 智香子
- ・指導医人数：（ 17 ）人
- ・精神科病床数：（ 404 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	233	123
F1	581	319
F2	697	477
F3	526	176
F4 F50	604	41
F4 F7 F8 F9 F50	1407	101
F6	109	20
その他	678	190

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

脊振山系が目の前に広がる自然に恵まれた単科精神科病院である。佐賀県唯一の精神科救急病棟を有していることもあり、指定医、専門医の症例は豊富にあり、毎年20人以上の専攻医が研鑽を積んでいる。精神科救急病棟を教育研修の中心の場とし、精神科リハビリテーション、地域医療（デイケア、訪問診療）を学ぶことができる。また、こどもの心の診療拠点病院、依存症治療拠点機関、認知症疾患医療センター、医療観察法指定入院・通院医療機関に指定されており、他施設では経験が難しい臨床経験（児童精神医学、嗜癖、司法精神医学、精神鑑定の助手、救急トリアージ、DPAT研修、CVPP研修）も積むことができる。クロザピン、修正型電気けい

れん療法の経験もできる。

このように高度専門オールラウンド型病院であり、医師のみならず多職種に選ばれる精神科研修病院である。指導医も多く、九州大学の黒木俊秀教授をはじめとする複数の教育回診、カンファレンス、症例検討会など教育プログラムも豊富に備えている。

4. 研修プログラム

1) 全体的なプログラム

一般的な精神科医として求められる素養を3年間で身につけ、研修終了時点で精神保健指定医および精神神経学会専門医資格の申請、取得を目標としている。研修の中心となる当院の精神科救急病棟は人的資源が豊富であり、多職種での集中的な取り組みを経験することが可能である。また、当院では「しっかりと治療をする」ことを重視しており、難治例については救急病棟であっても時間をかけることをいとわない。mECTやクロザピンといった専門治療の適応や実際について経験するとともに、あらゆる資源を投入して患者さんを支えていくプロセスを体験することが可能である。また精神科救急病棟では患者さんの入退院が多く、様々な症状等に対応するためにも必然的に精神保健福祉法などの法制度についての知識や理解が必要となる。これらも机上の学習のみならず日々の臨床の中から生きた知識と経験を重ねることを目指している。

地域精神医療については、当院でのアウトリーチ活動でも一定の経験は可能であるが、森本病院での研修を通して、より具体的な経験を積むことが可能となっている。また、司法精神医学や児童精神医学についても各種鑑定、精神科救急病棟での診療や外来診療などで十分に経験することは可能であるが、より高度な経験を積むことを目標として、肥前精神医療センターとの連携を行い、研修の充実を図っている。

当院は単科精神科病院であるが、常勤の内科医師が3名おり身体疾患への対応は主治医である精神科医師と共同して行っている。また近隣の総合病院とは初期研修医の精神科研修や総合診療科の専門医研修にて連携を行っており、リエゾンとしての対診を含めて診療上の連携は非常に活発である。今後は、総合病院の各科との症例検討会などを通してさらに連携を強化し、相互の学習機会を確保することを計画中である。

当院では日本精神神経学会や日本精神科救急学会などの学術総会、各種研修会への参加を積極的に勧めており、また学会発表も活発である。学会発表については院内での発表機会を設けることで全職員にフィードバックできる体制を構築している。院内では年度末に各職種を含めた院内症例研究発表会を実施しており、医師も含めたスタッフの活発な議論が行われている。外部講師を招聘した講演会も年に数回実施しており、外部医療機関の医師や各職種との交流機会ともなっている。

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。

- 1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全

管理。各年次の到達目標は以下の通りである。

2) 年次到達目標

・1年目

研修開始から3ヶ月間は指導医が主治医として担当する基本的疾患（統合失調症および気分障害、認知症など）のできるだけ典型的な患者を担当医として指導医とともに担当し、面接・診断、治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学ぶ。指導医とともに入院や行動制限の実際を経験することで、患者の人権に配慮して法に基づいた診療を行う基礎を身につける。研修開始から4ヶ月目より専攻医の研修状況を本人および多職種スタッフにより確認した上で問題なければ、主治医としての患者を担当し、指導医（担当医となる）とのチームを維持しつつ入院診療を担当する。担当する症例も神経症圏や処遇のやや困難な症例などに幅を広げて、より実践的な臨床能力を身につけていく。

また外来では、研修開始1ヶ月後を目安に新患の予診および指導医の診察への陪席を行う。4ヶ月目より退院患者の外来診療を指導医の指導のもとで開始、6ヶ月目から予診を行った新患の外来診療も受け持つ。外来診療については同じ時間帯に外来を担当する指導医が随時指導するほか、週に1回程度、カルテ回診を行い指導を行う。

mECTについては麻酔管理を含めて研修開始2ヶ月目から週1回程度担当、1年次終了時にはmECTを麻酔科医と2人で実施できることを目標とする。1年次終了までに地方会ないし研究会での症例発表を1例程度経験することを目指す。また院内研究発表会での発表を行う。

・2年目：指導医の指導を受けつつ、主治医として主体的に精神科救急の中で各種疾患の経験を積んでいく。特に身体疾患を有しており、内科医師または外部医療機関との連携が必要な症例の担当を通して、リエゾン等の研修も行う。さらに、アディクション治療病棟での診療に参加し、依存症治療の基本を学ぶ。2年次には、日本精神科救急学会において精神科救急のテーマにおいて演題発表を経験する。また院内研究発表会での発表も行う。

・3年目：指導医に自ら助言を求めるなかで自立して診療できることが目標である。また初期研修医への指導も担当し、教育的配慮も身につけていく。肥前精神医療センターでは医療観察法病棟や児童精神医学の研修を行う。また、森本病院での勤務においては、これまで身につけた臨床能力を地域医療の中で実践することを経験していく。また、3年目の研修においては、精神鑑定を鑑定医の助手として1例以上を主体的に取り組むこと、また全国規模の学会での発表（日本精神神経学会など）での発表を経験する。院内研究発表会では座長ないし審査員として、教育的立場を果たせることを目標とする。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

患者さんやその家族、多職種スタッフとのカンファランス等を通して、社会人として常識ある態度や素養を身につけていく。当院には様々な臨床経験を有した医師が勤務しており、それらの医師との交流を通して、医師としての倫理性や社会性を身につけることも期待される。また、森本病院での研修においては地域医療の現場で活躍するスタッフとの交流が可能であり、肥前精神医療センターでの研修においては様々な医療機関から研修のために集まってくる医師や多職種との交流・研鑽が期待される。

利益相反等を含めた高い倫理性は重要な資質であり、当院で行われている臨床治験等を通してそれらの素養を涵養することも期待される。

② 学問的姿勢

専攻医は日常の臨床から浮かび上がる疑問を常に様々な文献などを通して解決することが求められる。単に指導医に指導を仰ぐのみならず、指導医とともに学ぶという姿勢が重要である。さらに、精神科臨床においては医師が常にすべての知識・経験を有しているわけではなく、各種カンファランス等を通して他職種から知識や経験を吸収することが重要である。

③ コアコンピテンシーの習得

日本精神神経学会や関連学会の学術集会や各種研修会、セミナー等に参加して 医療安全、感染管理、医療倫理、医師として身につけるべき態度などについて履修し、医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)を高める機会をもうける。

法と医学の関係性については日々の臨床の中から、様々な入院形態や行動制限の事例を経験することで学んでいく。診断書、証明書、医療保護入院者の入院届け、定期病状報告書、死亡診断書、その他各種の法的書類の記入法、法的な意味について理解し記載できるようになる。

さらに研修連携施設の森本病院ではチーム医療の必要性について地域活動を通して学習する。また院内では集団精神療法や作業療法などを経験することで他のメディカルスタッフと協調して診療にあたる。さらに肥前精神医療センターでの医療観察法病棟での研修においては、チーム医療の最先端および地域との連携についても学ぶ。

当院で研修する初期研修医や総合診療科専攻医、また次学年以降の専攻医への指導的配慮を通して、教育的配慮を実践していく。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

経験した症例の中で特に興味ある症例については、地方会（1年次）および全国規模の学術総会（2年次以降）において発表を行い、その後成果を論文にまとめて学会誌等への投稿を経験していく。

日本精神神経学会総会、日本精神科救急学会については必ず参加し、その他の関連学会についても可能な限り参加する。さらに、各年次に定めた学会・研究会への発表を行う。また院内での研究発表会や他職種を交えた院内研修会での発表も経験する。

4) ローテーションモデル

1年次：当院（精神科救急病棟）	12ヶ月
2年次：当院（精神科救急病棟）	9ヶ月
（アクション病棟）	3ヶ月
3年次：森本病院	3ヶ月
当院（精神科救急病棟）	3～6か月
肥前精神医療センター	3～6か月

* 肥前精神医療センターでの研修は司法（6ヶ月）または児童（3ヶ月）の選択を予定しており、専攻医の興味関心に従い決定する。肥前精神医療センターで司法を経験しない場合には当院での精神鑑定および医療観察法通院処遇を通して司法領域の研修を行い。同センターで児童を経験しない場合には当院にて児童思春期症例の経験をするとともに専門医（外部）を招聘しての講義等を計画している。また将来的には児童思春期を専門的に診療しているクリニックを連携先の医療機関として選定する予定である。

5) 研修の週間・年間計画

プログラム末尾に添付

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

医師	熊谷	雅之	（雁の巣病院 院長）
医師	原田	貴史	（雁の巣病院 指導医）
医師	長沼	英俊	（雁の巣病院 指導医）
医師	田島	孝俊	（雁の巣病院 指導医）
医師	栗田	晋	（雁の巣病院 指導医）
医師	波江野	誠	（森本病院 院長）
医師	吉森	智香子	（独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター 指導医）
看護師	山口	幸子	（雁の巣病院 看護部長）
精神保健福祉士	神谷	直美	（雁の巣病院 医療相談部部長）
事務	豊田	史郎	（雁の巣病院 事務部長）

・プログラム統括責任者

熊谷 雅之

・連携施設における委員会組織

研修プログラム連携施設担当者と専門研修指導医で委員会を組織し、個々の専攻医の研修状況について管理・改善を行う。

5. 評価について

1) 評価体制

・雁の巣病院

プログラム責任者（熊谷雅之）

指導医（当該専攻医の担当指導医）

看護部長

配属先の病棟看護課長

外来看護課長

医療相談部部長

*上記のものがそれぞれ評価を行い、最終的にプログラム責任者が取りまとめる。

・森本病院

連携施設担当者（波江野 誠）

看護部長および研修部署（病棟および外来、院外関連施設）の代表者

・独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター

連携施設担当者（吉森 智香子）

配属先病棟での指導医

配属先病棟 看護師長

このほかに、同センターが適切と認めたもの（可能であれば多職種で構成）

2) 評価時期と評価方法

(評価の方法)

- ・評価は専攻医および指導医、および研修プログラムを対象として、双方向で行う。
- ・研修評価の内容によって専攻医および指導医が不利益を受けないように、統括責任者および指導責任者が配慮することとする。

(評価の時期と内容)

- ・3か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・6ヶ月ごとに、研修目標の達成度および研修プログラム内容について上記担当者および専攻医が評価を行い、それに基づいて当該研修施設の指導責任者と指導医、専攻医が面談等を行い、フィードバックする。
- ・1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を統括責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」（別紙）に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回行う。

雁の巣病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル（別紙）
- 指導医マニュアル（別紙）

・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

・指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

雁の巣病院の医師就業規則に基づき勤務時間あるいは休日、有給休暇などを与える。

勤務（日勤） 8：30～17：00

当直勤務 17：00～翌8：30

休日 ①土・日曜日 ②国民の祝日 ③年末年始の当院が定める期間

④このほかに当院が指定した日

- ・年次有給休暇を規定により付与する
- ・その他慶弔休暇、産前産後休業、介護休業、育児休業など就業規則に規定されたものについては請求に応じて付与できる。
- ・学会出張等については当院の定める範囲内において業務として認め、日

当および交通費等を規定に基づいて支給する。

2) 専攻医の心身の健康管理

安全衛生管理規定に基づいて一年に2回の健康診断を実施する。

検診の内容は別に規定する。産業医による心身の健康管理を実施し異常の早期発見に努める。

3) 研修プログラムの改善・改良

研修施設群内における連携会議を定期的で開催し、問題点の抽出と改善を行う。

専攻医からの意見や評価を専門医研修プログラム管理委員会の研修委員会で検討し、次年度のプログラムへの反映を行う。

4) FDの計画・実施

毎年1名以上の研修指導医には日本専門医機構が実施しているコーチング、フィードバック技法、振り返りの促しなどの技法を受講させる。研修基幹施設のプログラム統括管理責任者は、研修施設群の専門研修指導医に対して講習会の修了やFDへの参加記録などについて管理する。

別紙 年間スケジュールおよび週間スケジュール

①雁の巣病院

4月	オリエンテーション 精神保健福祉法 院内研修 福岡精神科救急病棟医療研究会
5月	基礎的なクルズを開始
6月	日本精神神経学会学術総会 参加
7月	
8月	日本うつ病学会（任意）
9月	日本アルコール関連問題学会(任意)
10月	日本精神科救急学会 参加および発表
11月	
12月	九州精神神経学会 発表
1月	
2月	
3月	日本統合失調症学会（任意） 院内症例発表会

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	全体ミーティング、医局会	全体ミーティング、医局会	全体ミーティング、医局会	全体ミーティング、医局会	全体ミーティング、医局会
9:00-10:00	カンファランス	カンファランス	カンファランス	カンファランス	カンファランス
10:00-12:00	mECT	外来業務	mECT	外来業務	mECT
13:00-16:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	デイケア・訪問
16:00-17:00	各種会議	抄読会 症例検討会	クルズス (症例検討)	クルズス	院内研修

②森本病院

4月	オリエンテーション 精神保健福祉法 院内研修
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会 参加
7月	

8月	日本うつ病学会（任意）
9月	日本アルコール関連問題学会(任意)
10月	日本精神科救急学会 参加および発表
11月	
12月	九州精神神経学会 発表
1月	
2月	
3月	日本統合失調症学会（任意）

	月	火	水	木	金
8:45-9:00	病棟ミーティング	病棟ミーティング	病棟ミーティング	病棟ミーティング	病棟ミーティング
9:00-12:00	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
12:45-13:15	医局ミーティング		医局ミーティング		医局ミーティング
14:00-17:00	病棟業務	地域医療 (施設訪問)	病棟業務	地域医療 (施設訪問)	病棟業務

- ・火曜日・木曜日の地域医療（施設訪問）は、月に3回の予定である。
地域医療がない場合は、病棟業務となる。

②独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター

<p>4 月</p>	<p>新入医局員・研修医オリエンテーション</p> <p>CRAFT(依存症家族支援)研修</p> <p>「お母さんの学習室」第一期開催</p>
<p>5 月</p>	
<p>6 月</p>	<p>新入医局員・研修医オリエンテーション</p> <p>CVPPP(包括的暴力防止プログラム)研修</p> <p>BLS 講習会</p> <p>日本精神神経学会学術総会参加</p> <p>日本司法精神医学会参加</p> <p>日本老年精神医学会参加</p> <p>医療安全研修会</p>
<p>7 月</p>	<p>精神看護研修</p> <p>ブリーフインターベンション&HAPPY プログラム研修会</p> <p>国立病院機構精神科レジデントフォーラム参加</p> <p>佐賀県精神科集談会参加</p> <p>精神保健福祉法及び行動制限最小化に伴う研修会</p>

8月	<p>新入医局員・研修医オリエンテーション</p>
9月	<p>佐賀大学医学部アーリーエクスポージャー</p> <p>「お母さんの学習室」第二期開催</p> <p>医療安全研修会</p>
10月	<p>新入医局員・研修医オリエンテーション</p> <p>佐賀県精神科集談会参加</p> <p>肥前精神医学セミナー</p> <p>CVPPP(包括的暴力防止プログラム)研修</p> <p>CVPPP(包括的暴力防止プログラム)研修(フォローアップコース)</p> <p>BLS 講習会</p> <p>日本児童青年精神医学会参加</p> <p>アルコール・薬物依存関連学会参加</p> <p>院内感染対策研修会</p> <p>虐待防止研修会</p>
11月	<p>医師採用面接</p> <p>認知症ケア研修</p> <p>九州精神神経学会参加</p> <p>国立病院総合医学会参加</p> <p>日本臨床神経生理学会参加</p>

	DPAT 研修会
12 月	<p>新入医局員・研修医オリエンテーション</p> <p>医師採用面接</p> <p>アルコール・薬物関連問題研修</p> <p>佐賀県精神科集談会参加</p> <p>院内感染対策研修会</p>
1 月	全国児童青年精神科医療施設協議会参加
2 月	<p>新入医局員・研修医オリエンテーション</p> <p>医師採用面接</p> <p>司法精神医学研修</p> <p>CVPPP(包括的暴力防止プログラム)研修</p> <p>認知症かかりつけ医研修会</p> <p>BLS 講習会</p> <p>医療倫理研修</p> <p>佐賀県かかりつけ医認知症対応力向上研修会</p> <p>精神保健福祉法及び行動制限最小化に伴う研修会</p> <p>メンタルヘルス研修</p> <p>向精神薬フォーラム in SAGA 参加</p>
3 月	佐賀県精神科集談会参加

九州地区重症心身障害研究会参加

その他	肥前セミナー(年数回)
	先端精神医学セミナー(年数回)
	国立病院機構精神医学講義(基礎講座、応用講座)(週1回)
	モーニングカンファレンス(週1回)
	認知症多職種勉強会(月2回)
	児童グループモーニングカンファレンス(週1回)
	アルコール薬物関連問題勉強会(ひみこクラブ)(月1回)
	BI(ブリーフインターベンション)&HAPPY 勉強会(月1回)
	統合失調症家族教室(月1回)
	刑事鑑定カンファレンス(随時)
	佐賀大学臨床実習(隔週)
	九州大学クリニカルクラークシップ(年1~2回)

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	児童グループ プモーニング カンファレン ス(毎週)				モーニングカ ンファレンス
9:00-12:00	病棟診療	外来診療(再 来)	統括診療部 長教育回診 (月2回) 病棟診療	院長回診(毎 週) 病棟診療	外来診療 (新患予診)
			アルコールリ ハビリテーシ ョンプログラ ム 発達障碍児 のペアレント トレーニング (お母さんの 学習室)		
12:00-13:00					国立病院機 構精神医学 講義(基礎講 座、応用講 座)
13:00-17:30	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療
	医師養成研 修センター長 教育回診(月 2回)	ECT	医局会(毎 週) 新入院報告 会(毎週) チームミーテ ィング(月1 回)	褥瘡回診(月 1回)	ECT

			<p>症例検討会 (月1回) 黒木九州大 学教授教育 回診(月2 回) 脳波判読会 (毎週) 救急病棟多 職種カンファ レンス(毎 週) 先端精神医 学セミナー (不定期)</p>	
17:30-20:00	<p>アルコール 薬物関連問 題勉強会(ひ みこクラブ) (月1回)</p>		<p>認知症多職 種勉強会(月 2回)</p> <p>アルコール 薬物関連問 題勉強会(BI &HAPPY勉 強会)(月1 回)</p>	<p>肥前セミナー (不定期)</p>